

令和5年度 山形城北高等学校 前期始業式 校長式辞 (R5.4.6)

本日より、令和5年度が始まりました。春休み中、大きな事故の報告もなく、明日の入学式で386名の新入生を迎え、学校全体の生徒数は1098名でのスタートとなりました。

さて、3月1日に卒業した先輩方は、おそらく新天地での生活が始まったことと思いますが、進路概況としては、大学・短大進学が54%、専門学校進学が30%、就職が12%です。このところ就職が減って大学進学が増えているという状況になってはいますが、これは、本校だけでなく山形県全体の傾向で、おそらくコロナによって様々な体験の機会が奪われ、働くことの現実感が失われているということが影響しているのかもしれませんが。

高校を出てすぐに働くには、それなりの決心が必要です。一方、近年は人手不足が深刻となっており、会う人会う人から就職希望者がいないかと聞かれることが多くなっています。日本は少子高齢化が深刻ですが、それと同時に労働人口の減少が課題になっているのです。勿論、AIの進歩が労働の一部を補ってくれることは間違いありませんが、医療や介護、運送など、AIで代替できない仕事もあります。

AIと言えば、最近Chat GPTという自然な文章を生成する対話型AIが話題です。試しに私も使ってみました。「高校の始業式で話すネタを教えてください」と聞いてみたところ、次のような回答が返ってきました。

はい、高校の始業式で話すネタとしては以下のようなものが考えられます。

1. 目標設定について

新学期が始まるにあたって、新たな目標を設定することの大切さについて話してみるのはいかがでしょうか。具体的な目標の設定方法や達成するための方法を提案することで、生徒たちに意欲とやる気を与えることができます。

2. 夢について

夢や希望を持つことの大切さについて話すのも良いでしょう。自分たちが将来どのような人生を送りたいのかを想像し、その夢に向かって努力することで、自分自身を成長させることができます。

3. 勉強の大切さについて

高校生になると、勉強がますます重要になってきます。そのため、勉強の大切さについて話してみるのも良いでしょう。勉強が自分自身を成長させるための最も効果的な方法であることを伝え、やる気と意欲を生徒たちに与えましょう。

4. 自己管理について

高校生になると、自分自身を管理することがますます重要になってきます。自己管理の方法や重要性について話すことで、生徒たちに自分自身を管理する方法を教え、より効率的に学ぶことができるようになります。

5. コミュニケーション能力の大切さについて

高校生活は、友達や先生とのコミュニケーションが欠かせません。コミュニケーション能力の大切さについて話し、自分自身が積極的にコミュニケーションを取ることの重要性を伝えることができます。

以上が、高校の始業式で話すネタの一例です。テーマに応じて、生徒たちがより良い学校生活を送るためのアドバイスを提供してみてください。

これが Chat GPT の回答です。結構、的を射たものだと思いますか。とはいえ、生徒にとってはかなり退屈な話になるだろうなどは感じます。今日はこの Chat GPT のアドバイスを無視して、もっと退屈になるかもしれない哲学の話をしてします。

3月の修了式で「同調行動」に触れ、苺狩りで食べる苺が美味しいのは、苺を自分で選んで自分で採ったという行為そのものが美味しさを倍増させているのだというような話をしました。哲学では、人間を「時間存在」「関係存在」「自律存在」の3つの存在で定義します。

「時間存在」とは、将来があるから今の自分の存在が確認できるというもので、例えば、小さいときに病気をした経験から、将来は看護師さんになりたい、だから今は、看護学科を目指して勉強に励むというものです。何か困難な状況にぶつかり、逃げ出してしまいたいとき、将来の夢や希望があれば、それを目標に強くなれるというものです。

2つ目の「関係存在」とは、誰かに必要とされることで得られる喜びのことです。例えば、サッカーの試合で自分が得点を決め試合に勝った時、自分は周囲から必要とされていると認識します。あるいは、好意を寄せている人から「好きな食べ物は何か？」なんて聞かれるものなら、飛び上がるくらいに嬉しいでしょう。自分の存在は、他者から認識され、必要とされることによって体感できるというものです。

3つ目の「自律存在」とは、自分を律すると書き、これは自己決定できる喜びのことです。死が迫っている患者さんの苦痛を最小限にすることを主な目的とするホスピスでは、患者さんは先ほど述べた夢や希望、誰かに必要とされる喜びはなかなか実感できません。そこで、患者さんにできるだけ自己決定させることを心掛けているのです。通常の病院なら食事のメニューを選ぶことはできませんが、ホスピスでは食事だけでなく、散歩に行くかどうかも自分で決めることができ、喜びを体感させるわけです。これについては、作家の小川糸さんが書いた『ライオンのおやつ』という小説に詳しく書かれています。とても感動的な小説で、キーフレーズは「人生の最後に食べたいおやつは何ですか」です。

時間存在…夢や希望、関係存在…誰かに必要とされること、自律存在…自己決定できる喜び、この3つの柱が太いに越したことはありませんが、一本でも頑丈であれば人生、何とかなるものです。

さて、明日は初めてのことですが、やまぎん県民ホールを会場に、午前中は高校、午後は文教大学・短期大学の入学式になります。在校生の皆さんは生徒会長さんと吹奏楽部の部員のみとなります。式辞は、今話をした3つの柱の内、自律存在、苺の話になります。

最後になりますが、2月の学校評価アンケートに協力いただきありがとうございました。具体的な改善提案もたくさんいただき、それについてはできることから実施していきますが、まずはパンの販売について、1・2時間目の終わりの休み時間は普通科、3時間目の終わりは特進科として、特進科の皆さんも買いやすいようにしますので、ぜひ利用してください。

それでは今年一年、皆さんが楽しく元気に学校生活を送り、笑顔とあいさつの溢れる学校になることを期待し、始業式の式辞とします。